

量の見込みの計算方法について

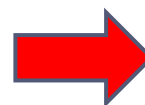
こども家庭部子育て支援課

A区の様況（前提条件）

$$\begin{aligned} & \text{その家庭類型の世帯数} \\ & \div \text{全体の世帯数} \\ & = \text{家庭類型割合} \end{aligned}$$

- ▶ ニーズ調査回答世帯数 1000世帯
- ▶ ニーズ調査の結果、潜在家庭類型別の人数が以下のように算定された。

潜在家庭類型	世帯数	家庭類型割合
タイプA(ひとり親)	30	0.030
タイプB(フル×フル)	300	0.300
タイプC(フル×パート長時間)	100	0.100
タイプC'(フル×パート)	40	0.040
タイプD(専業主婦or専業主夫)	500	0.500
タイプE(パート長時間×パート長時間)	15	0.015
タイプE'(パート×パート)	5	0.005
タイプF(無業×無業)	10	0.010
計	1000	1.000

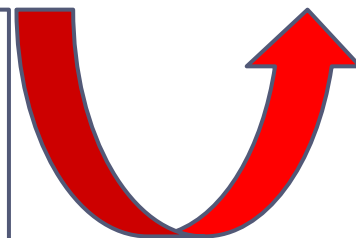


保育の量の見込みの前提条件

- ▶ 集計の対象となるのは、タイプA、B、C、Eの4類型。
- ▶ 上記の集計対象となる4類型のうち、保育の利用を希望している世帯が何世帯あるかを集計。
- ▶ ニーズ調査の結果、保育の利用意向は以下のとおりとなった。

潜在家庭類型	世帯数	保育希望数	利用意向率
タイプA(ひとり親)	30	20	0.66
タイプB(フル×フル)	300	280	0.93
タイプC(フル×パート長時間)	100	60	0.60
タイプE(パート長時間×パート長時間)	15	5	0.33

その家庭類型で保育を希望している数
÷ その家庭類型の人数
＝ 利用意向率



保育の量の見込みの基本的な計算式

- ▶ 推計児童数(人) × 潜在家庭類型(割合)
＝家庭類型別児童数(人)
- ▶ 家庭類型別児童数(人) × 利用意向率(割合)
＝量の見込み(人)
- ▶ 子育てのひろば(地域子育て支援拠点事業)のように、単位が「人回」や「人日」となる事業は、上記に加えて、利用意向回数を掛け合わせる等して、それぞれの事業ごとの計算式が国の手引きで示されている。

保育の量の見込みの計算

- ▶ 対象の推計児童人口は、30000人と仮定。
- ▶ これまでの前提条件から、A区の保育の見込みは以下のように計算される。

潜在家庭類型	推計児童数	家庭類型割合	利用意向率	量の見込み(人)
タイプA	30000	✕ 0.030	✕ 0.66	= 594
タイプB	30000	✕ 0.300	✕ 0.93	= 8370
タイプC	30000	✕ 0.100	✕ 0.60	= 1800
タイプE	30000	✕ 0.015	✕ 0.33	= 149

A区の保育の量の見込みは、10913人

- ▶ ※本来は、保育は0歳、1・2歳、3～5歳の3区分で計算。